

心に残る文化財子ども塾 活動の概要と様子 ～ 松江市立義務教育学校八束学園 ～

1. 概要

6月22日(火)、松江市立義務教育学校八束学園で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。八束学園のある大根島・江島は、奈良時代に記された『出雲国風土記』にも詳しい記載があることから、奈良時代の八束町を中心とした説明や体験活動を実施しました。前半は中海周辺の遺跡から出土した土器などに触れる体験を行い、後半では低融点合金を使用した和同開珎作りを企画しました。

最初に、縄文土器、弥生土器、奈良時代の土器を並べて、どの土器がいつの時代のものかを当てるクイズから始めました。精巧な縄文土器に惑わされ、奈良時代の土器を当てられた人はほんのわずか。なかなか見た目ではわかりません。また、奈良時代の大根島には「牧」があったと言うことで、馬にちなんで、奈良時代に作られた土馬(焼物の馬のミニチュア)に触れてみました。

後半は、5人一組になって、低融点合金を使った和同開珎作り。型の締め付けが緩く、溶けた金属が漏れ出して失敗したグループが続出。すぐにやり直したりして大変でしたが、みんな熱心に活動に取り組んでいました。3回もやり直したグループもありましたが、なんとか、みんな完成。身近な遺跡や地域の歴史について興味・関心を持つ契機になったのではないのでしょうか。

2. 学習の様子



本物の土器を前に、奈良時代の説明です。手にとってみましょう。



「へ～、これが本物の昔のお金かあ」



いよいよ、和同開珎作りです。



低融点金属を加熱して溶かして、



いよいよ型に流し込みます。



切り取って完成！

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・本物の土器にさわられて嬉しかった
- ・八束町にも遺跡が残っている事を初めて知りました。
- ・もっと土馬を見たりさわったりしたい。
- ・お金を作っているときに、何回もこぼれたけれど、楽しかったです。
- ・思ったより縄文土器がすごかったことが心に残りました。

2) 担任の先生から…

- ・歴史において“本物”以上の教材はないと思うので、本物に触れることができよかった。
- ・和同開珎作りも、当時の技術を交えた説明だったので、単純な体験で終わらなかったのがよかった。
- ・難しいかもしれないが、全員が土器に触れられたらよかった。時代別の土器をじっくり比べる時間があるとよかった。内容が、古代中心だったので、幅広い時代に関わるものがあるとよかった。

3) 埋文センターから…

- ・みなさん、楽しんでいただけたようでよかったです。
- ・今回の和同開珎作りは、型がくたびれ、輪ゴムも強力でなかったため、金属が漏れ出して失敗する班が続出しましたが、それもまた、古代の技術の大変さを考えてもらえるきっかけとなったと思えます。また、地域にも様々な遺跡があることをお伝えでき、興味を持つきっかけになればうれしいです。